



## メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする

高橋宏知著. -- 日刊工業新聞社, 2016.

REVIEWER

医学部医学科2回生

### 話題と示唆に富むが、医療系学生が読むには情報・工学系の知識が必要

工学系の読者を想定している事は、題名を見れば明らかであるが、医療系学生が読んで楽しめる本なのだろうか？結論から言うと「情報・工学系の知識がある程度必要」である。

この本は、神経系に関する様々な仮説を紹介する、という形式をとっている。仮説の説明では、証拠となる実験や、工学への応用例なども扱う。また最後には、紹介された仮説を元にした神経系の全体像も示される。

仮説などの話題は、医学寄り／身近であるが、散見される「ハードウェア」などの工学用語や数式は読者を選ぶ。特に、脳はコンピューターやニューラルネットワークとの対比で説明されており、メカ屋を想定している事がよく分かる。しかし、工学系にも明るいなら、非常に有用な内容である。脳の分散処理といった話題に関しても、脳を再現する試みと実際の脳を比較する事でその必要性が理解しやすくなる。数式を用いた説明は曖昧さがないため、人によってはむしろ分かりやすいだろう。

情報・工学系の知識がなくても、拾い読みする分には十分面白いだろう。錯視などの身近な話題を多く説明するほか、研究全般などを扱ったコラムも面白い。

医療系学生に関して言えば、工学系の背景も持つ人が神経系について学ぶ、工学部の友人と読む、工学部と共同研究する際に読む、などの場合に特に使ってほしい一冊だ。

受理：2017-01-17

491

371

Ta 33

医図開架